

カゲロウ

菊池智恵子
Chieko Kikuchi

Interview

カゲロウは勢いが
大切なバンドなので
感覚だけで気持ちいいと
感じる音を弾くんです

ピアノ、サックス、ベース、ドラムという編成で、アバンギャルドで激しい演奏を聴かせる“ジャズ・バンク”バンド、カゲロウ。ニューアルバム『KAGERO III』は、彼らの持ち味であるフリーキーなジャズ・ナンバーに加え、メロディアスなバラードも聴かせる充実した内容の1作だ。そこで、バンド内で唯一のコード楽器を担当し、カゲロウ・サウンドの一端を担うピアニストの菊池智恵子にインタビューを敢行。これまでの経歴やアルバム制作について話を聞いた。また、彼女のオリジナリティあふれる演奏法についてレクチャーしてもらったので、ぜひその技を学び取ってほしい。

3

『KAGERO III』
メディアファクトリー：RASC-004

パートがあって、和音も特徴的な曲です。ジャンルは違えど、カゲロウと世界観でリンクするものがあつたのかもしれないですね。それからあつという間に私がサポートでカゲロウに参加することになり、1年後、2010年の4月に正式メンバーとなりました。

●実際にバンドに加入してみて、どうでしたか？

●ずっとクラシックで育ってきたので、最初のころはリズムを合わせることに苦労しましたね。克服するために、リズムのウラのウラまできっちり合わせることを意識し、あとは、スタジオ・リハーサルで録音した音源を聴きまわりました。

●カゲロウではクラシックというよりジャズよりなプレイをしています。ジャズはどうやって身に付けたのですか？

●実はちゃんと習ったことはないんです。大学時代に自分でビル・エヴァンスのピアノ・スコアを買ってきて、独学で始めたのが最初です。あと留学中にジャズやブルースを演奏している人がたくさんいたので、彼らと話をしたりCDを貸し借りしたりして、そこでもジャズの影響を受けました。ジャズやブルース・バーのセッションにも参加して、理論っぽいことも教わりましたね。でも、カゲロウで演奏するときは全く理論は考えません。今のところ、聴いた感じで気持ちいいと思った音を選ぶやり方で演奏しています。

●指5本を全部使うような、すごく変わったボイシングをよくしていますよね？

●そうですね。現代音楽の音使いを取り入れているんです。ジャズだとアポイド・ノートがたくさんあるんですけど、現代音楽だと思えばそういうものはなくなっていきますから。きちんと弾くことも大事ですが、カゲロウでは勢いが大切だと思っているので本当に自由に弾いています。

●クラシックやジャズ、現代音楽などたくさんのジャンルの音楽を弾けるのはすごいと思います。

●1つのことをやるより、いろんなジャンルの音楽を演奏した方が、相互に影響し合っただけでアイデアや経験値が高まるような気がするんです。なので今でもカゲロウ以外の活動もしていますよ。武藤さんの、イーガルとロフゾーナフというバンドに参加したり、4つ打ち音楽ユニットDaisy, Shelf & Paddyで演奏したり。それからクラシックのコンサートも続けてるんです。やっぱりクラシックは大好きですし、指の鍛錬にもなりますしね。

●いろんなジャンルをやることで、カゲロウの“ジャズ・バンク”サウンドが生まれるんですね。

●そうですね。だからちゃんとしたジャズをやっている人からすると、私のボイシングやコードは違和感があるかもしれません。聴いている人の心に響いて、楽しんでもらえたら良いので、まず自分が“これだ！”と思う音を感じただけで弾いています。私たちはジャズを演奏しているという意識は全くなく、それがバンクと言われることにながっているのかもしれないですね。

Interview
いろんなジャンルを弾くことで
アイデアやが高まる

●菊池さんのピアノ歴を教えてください。

●私の叔母が自宅でピアノのレッスンを行っていたので、物心ついたころには自然に始めていました。最初はテレビで流れているCMやアニメソングなどをマネして弾くのが好きでしたね。そのうちクラシック・ピアノも好きになり始めて、その後はずっとクラシック。大学は音大ではなく教育学部の音楽科に進学し、人数が少なかったため、複数でのアンサンブルの機会は少なく、ソロ・ピアノばかり弾いていました。その合間に結婚式場でピアノを弾いたり、カシオのデジタル・ピアノを楽器屋の店頭でデモ演奏するアルバイトを始め、そこでポップスやジャズのピアノ・アレンジを弾くことで、クラシック以外の音楽を吸収していったんです。

●卒業後は、アメリカの音楽院に入学したと聞きましたが？

●そうですね。ボストンにあるニュー・イングラ

ド音楽院に入学しました。そのころはクラシック・ピアノを突き詰めていたので、コンペティションなども挑戦したり、賞もいただいたり、それなりに頑張っていましたね(笑)。日本に帰国してからは、クラシック・ピアニストとしてコンサートを行いつつ、ロバート・デ・ボロンというアーティストの『BEAT THE CLASSIC』や『Diaspora』というアルバムに、アレンジとレコーディングで参加しています。

●カゲロウと出会ったきっかけというのは？

●2009年1月に、現代音楽作曲家の武藤健城さんが企画したイベントで始めて出会ったんです。私はカゲロウの音楽を聴いて本当にびっくりしましたね。心に響きましたし、大好きになりました。人の巡り合いには本当に感謝しています。

●その日は菊池さんは演奏で参加していたんですか？

●そのイベントの主催者である武藤さんが作曲した現代音楽を弾いていました。偶然にも、「あなたをはじめてみたときに」というタイトル(笑)。もう気が狂いそうになるくらい速弾きの